

介護過程習得状況及びその教育方法 — 2年間の介護実習終了時のアンケート調査から —

森口靖子* 杉本清恵 藤井敬美 三上ゆみ

介護教育

Educating and Obtaining Care Process
— Through Students' Questionnaire after Care Practice —

Yasuko MORIGUCHI Kiyoe SUGIMOTO Hiromi FUJII Yumi MIKAMI
(1999年11月10日受理)

要約

一人ひとりの状態の異なった利用者が必要とする援助を的確に提供していくためには、計画的で科学的に介護を展開していく必要がある。その介護過程について、学生の習得状況とその習得状況をより良くするための考察をした。その結果、介護過程の履修状況と実習目標の設定が一致すること、介護過程の一連が展開できる実習期間の調整、実習指導方法の検討、実習現場の個別ケア体制への変換、また教育課程の検討等々の気付きがあった。

はじめに

平成12年度より開始される公的介護保険制度は現在の措置制度から契約へと移り、介護福祉士の活動基盤や役割・能力が大きく問われることになる。地域福祉学科は、平成8年に開設された介護福祉士養成の2年課程である。今年度で第2期生が卒業し、その教育課程の中で11週間の施設実習を実施しており、特に個別介護に視点を当てて介護過程を重点的に教育している。しかし、学生最後の実習となる第3段階の途中でも生活問題、ケア計画、実施、評価等、習得状況が十分とは言えない。その原因は何か、そして習得状況の向上のためにはどのような教育方法が有効なのかを知るためアンケート調査により検討した。

I. 研究目的

介護過程習得状況を把握し、次期教育方法を考察する。

II. 研究方法

1. 対象者：本学第2期生
2. 時期：平成10年3月
3. 方法：全実習終了後アンケート調査を実施し、調査結果をKJ法で分析した。(回収率98.2%)

III. 実習の概要

1. 実習の目標

- 第1段階 1. 利用者とのコミュニケーションが図れる。

2. 利用者の日常生活上のニーズが把握できる。
3. 日常生活上の援助方法が選択できる。
4. 施設の日課に沿って行動できる。
5. チームメンバーとして行動できる。
6. 学習の結果の評価ができる。
7. 自分の行動の傾向に気づくことができる。

○第2段階

1. 利用者の介護に必要な情報を集めることができる。
2. 利用者から集めた情報のアセスメントができる。
3. 利用者に適した介護目標と計画を立てることができる。
4. 介護計画に基づいた実践ができる。
5. 実践したことの結果を記録し、評価することができる。
6. 介護過程を再構成し、文章にまとめることができる。
7. 利用者との関りを評価し、分析することができる。

○第3段階

1. 施設における利用者の介護の特性が理解できる。
2. 受け持ち事例の生活像が説明できる。
3. 受け持ち事例との人間関係が成立、発展できる。
4. 利用者との関りを評価し、分析できる。
5. 介護計画に基づいた実践ができる。
6. 実践したことの結果を記録し、評価することができる。
7. 介護専門職と関連職種との関係が説明できる。
8. 利用者の処遇全般の流れの中で説明できる。

2. 実習形態及び施設と展開方法

- 第1段階：特別養護老人ホーム 13施設、2週間 受け持ちケースなし。
- 第2段階：特別養護老人ホーム 13施設、身体障害者療護施設 3施設、救護施設等4週間（2週間毎に施設を交替）。受け持ちケース1人決め、担当教員の事後指導で介護過程レポートを作成し、評価を受ける。
- 第3段階：第2段階の施設に加えて、重度身体障害者更生援護施設等5週間（3週間または2週間で施設を交替）。受け持ちケースを持ち、日課に沿っての実習をしながら受け持ちケースの介護過程を展開する。

3. 介護過程講義・演習と実習時期

介護過程講義・演習：18時間（講義4時間、グループワーク8時間、発表・討議6時間）
 実習指導：60時間（各段階実習前指導10時間、実習目的・目標、諸注意、記録の書き方、施設の概要、受け持ちケースについて、介護過程の展開等、休暇を活用し、出身地の施設での主体的事前学習）（各段階実習後指導10時間、反省会及び各施設担当教員による介護過程等個人指導）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次						実習前指導	第1段階	反実習後指導			介護過程演習	
2年次	実習前指導	第2段階	反実習後指導 (個別)		実習前指導		第3段階	実習後指導 (個別)				

図1 介護過程講義演習・実習時期と時間数

4. 実習及び講義の進捗状況

表2. 第2期生学科進捗表

科目	学年時・月	1年次												2年次											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
基礎科目	ヒューマンタウンウォッチング	_____																							
	生活と心理学	_____																							
	生活と生命論	_____																							
	情報処理	_____																							
	時事英語	_____																							
	英会話	_____																							
	総合基礎ゼミ	_____																							
	民俗学	_____																							
	生活と社会学	_____																							
	身体と文化	_____												_____											
スポーツ実習	_____												_____												
専門科目	地域福祉入門	_____																							
	社会福祉概論	_____																							
	老人福祉論	_____																							
	生活環境論	_____																							
	家政学概論	_____																							
	介護概論	_____																							
	介護技術	_____																							
	障害形態別介護技術	_____																							
	医学一般	_____																							
	社会福祉援助技術(講義)	_____																							
	レクリエーション指導法	_____												_____											
	老人・障害者心理	_____												_____											
	栄養・調理	_____																							
	障害者福祉論	_____												_____											
	リハビリテーション論	_____												_____											
	現代社会学	_____												_____											
	コミュニケーション論	_____												_____											
	社会福祉援助技術(演習)	_____												_____											
	地域文化論	_____												_____											
	地域文化演習	_____												_____											
	民族調査	_____												_____											
	環境音楽論	_____												_____											
	家政学実習Ⅱ(被服・生活)	_____												_____											
	地域福祉研究	_____												_____											
	家政学実習Ⅰ(調理)	_____												_____											
	精神保健	_____												_____											
	リハビリテーション演習	_____												_____											
人間関係論	_____												_____												
ボランティア演習	_____												_____												
音の文化論	_____												_____												
実習指導	_____												_____												
介護実習	_____												_____												

↑ 第1段階 ↑ 第2段階 ↑ 第3段階

IV. アンケート調査質問事項

1. 2年間の実習経験を教えてください。
①特養（ ）週間 ②身障療護施設（ ）週間
③救護施設（ ）週間
④重身障更生施設（ ）週間
2. 実習で学習できたことは何ですか？学習できたものに順位をつけてください。
（ ）現場での介護方法（ ）介護過程
（ ）態度・姿勢（ ）その他
3. 実習が終わって今、「介護する」ということは具体的にどんなことですか。
4. 実習が終わって今、「介護の対象」についてあなたの考えを書いて下さい。
5. 実習が終わって今、「生活問題」についてあなたの考えを書いて下さい。
6. 「介護過程の展開」で以下の項目についてあなたの考えを書いて下さい。
①誰のためにするのか
②何をするのか
③どのように計画するのか
④実践とは
⑤評価とは
⑥修正とは
7. 介護過程を展開してみて、授業科目のなかで特に必要とした科目は何ですか？必要度の高い科目から番号順に書いて下さい。その具体的内容を書いて下さい。
8. 総体的に介護過程は展開できましたか？
（ ）できた（ ）まあまあできた
（ ）よくわからない（ ）全然わからない
「できた」、「まあまあできた」と回答した人はどんな学習をしましたか。意見を書いて下さい。

V. 結果

1. 2年間の実習経験について

大多数の学生は特別養護老人ホームを中心にした実習である。に対し、身体障害者療護施設、救護施設、重症身体障害者更生援護施設の実習は少

ない。

2. 実習で学習できたことは何ですか。学習できたものから順番をつけて下さい。

1位：現場での介護方法

施設毎の介護方法について学習できたが10件、介護時の安全・安楽について学習できたが9件、応用が大切だが8件、その他基本、個別介護、技術が大切であるという意見である。また、教育と現場のギャップを感じたという意見もある。

2位：態度・姿勢

気配りの大切さを学習できたが7件、謙虚な姿勢が必要だが6件、笑顔が大切が4件、また、人権を尊重することが大切だが5件、利用者とのコミュニケーションのとり方についてが7件である。

3位：介護過程

介護過程の方法が学習できたが7件、介護過程の各要素について学習できたが8件、個別ニーズがあり、個別計画が必要であるが12件である。

4位：その他

コミュニケーションについて学習できたが5件、いろいろな施設やその運営のあり方などについてが4件、他職種との連携についてが3件、また、いろいろな利用者の尊厳性についてが3件等である。

3. 実習が終わって今、「介護する」ということは具体的にどんなことですか。

(90%回答)

利用者の生活能力への援助であるが28件で特に身体面の援助を、また、利用者の心のケアと利用者の意思を尊重することが大切が13件で精神的ケアの重要性を表している。そして、信頼関係を作ることが大切が7件、家族への援助も1件である。

4. 実習が終わって今、「介護の対象」についてあなたの考えを書いて下さい。

(63%回答)

生活問題のため日常生活が困難な人であるが15件、対象は個別性があるが9件、生活問題そのも

介護過程習得状況及びその教育方法

表1 実習施設別の経験人数

週間 実習施設	1	2	3	4	5	6	7	8	9
特養 (人)			4	1	1	9	9	6	24
身障 (人)	28	8							
救護 (人)	26	5							
重身障更 (人)		6							

NA 4

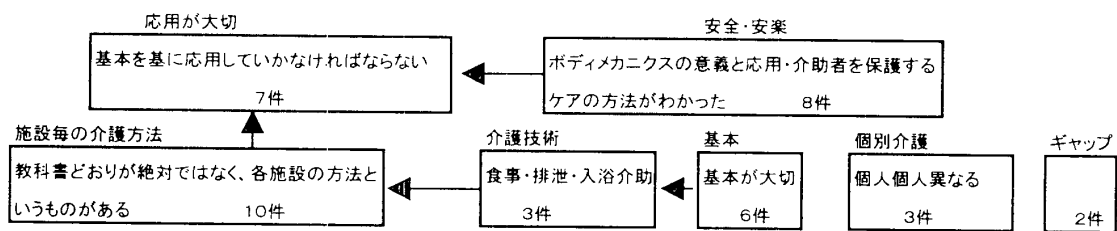


図2 現場での介護方法

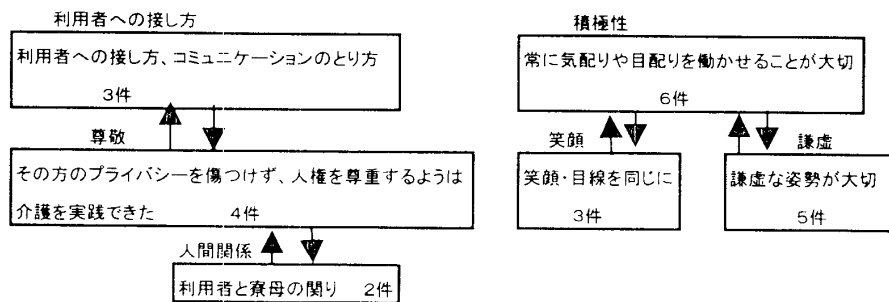


図3 態度・姿勢

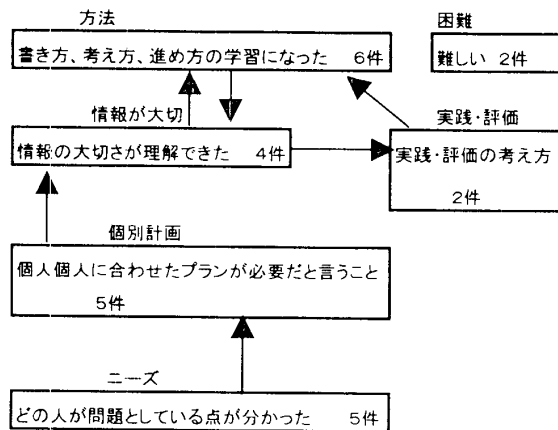


図4 介護過程

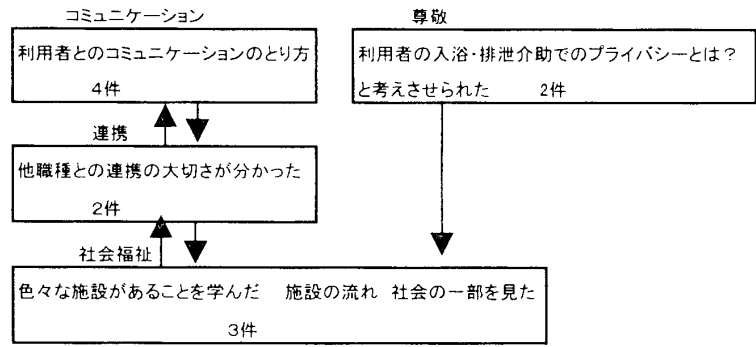


図5 その他

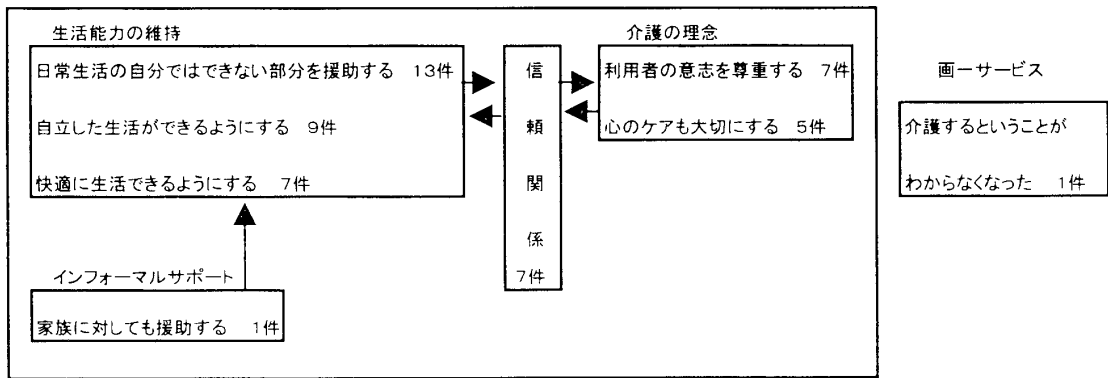


図6 「介護する」のとらえ方

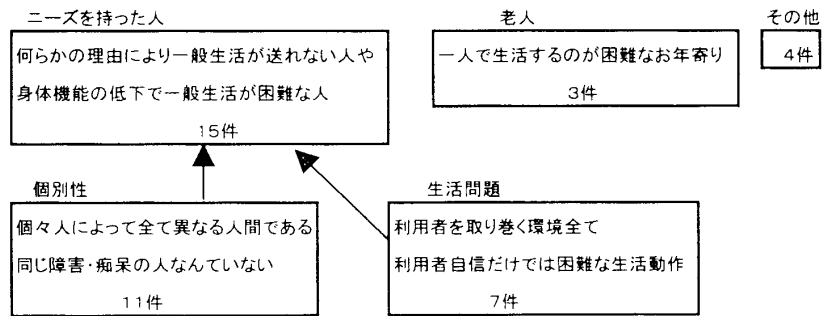


図7 「介護の対象」のとらえ方

のだが7件、老人に限定した意見3件である。その他不明確なものが6件である。

また、回答率が低い。

5. 実習が終わって今、「生活問題」についてあなたの考えを書いて下さい。

(74%回答)

快適生活を困難にする障害であるが17件、ADLが自立不可能なことであるが17件、人間の尊厳性であるが1件、その他社会的問題6件あり、

6. 「介護過程」の展開で以下の項目についてあなたの考えを書いて下さい。

①誰のためにするのですか (100%)

利用者のため・担当ケースのためが42件、利用者と家族が7件である。また、介護者のためが14件である。

②何をするのか (87%)

利用者の問題を見出し、問題解決を行うが21件、計画をたてるが9件、方法的なものの3件、目的を言うもの3件その他介護過程の各要素をいう意見6件である。

③どのように計画するのか (87%回答)

計画する時の状況に関する意見27件、問題点を挙げるもの6件、介護過程の一連の手順をいうもの5件、目標を上げるもの3件、5W1Hで立案

するという意見8件である。

④実践とは (84%回答)

具体策を行うが30件、利用者の反応をみながら具体策を実践するが7件、実践時に介護者が気をつける内容を挙げた意見4件、介護者の留意点を挙げた意見1件、その他4件である。

⑤評価とは (85%回答)

実践した結果から単に介護計画が良かったか、悪かったかを判断するが18件、実践した結果、計

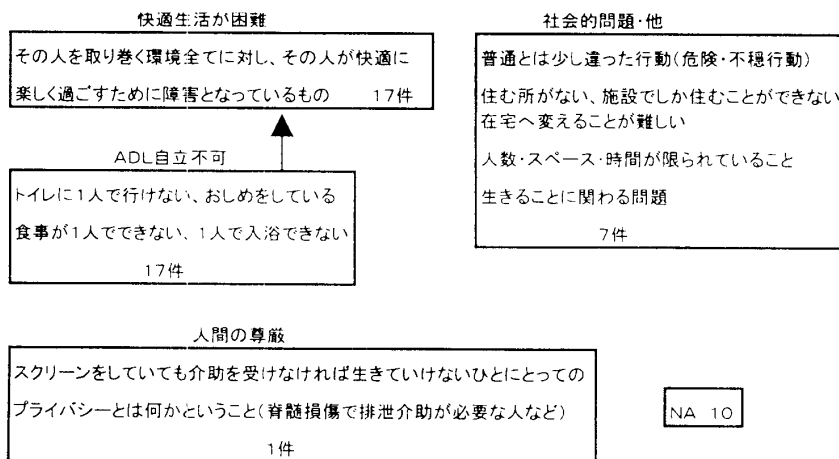


図8 「生活問題」のとらえ方

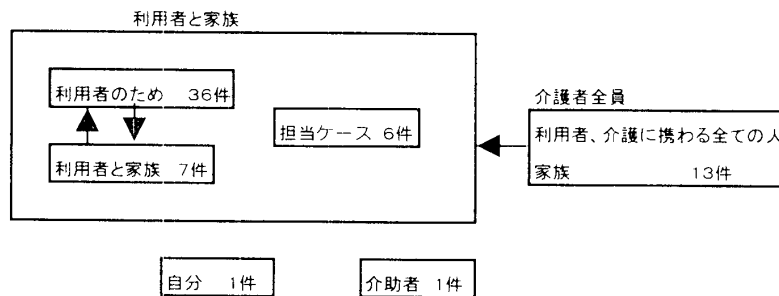


図9 誰のためにするのか

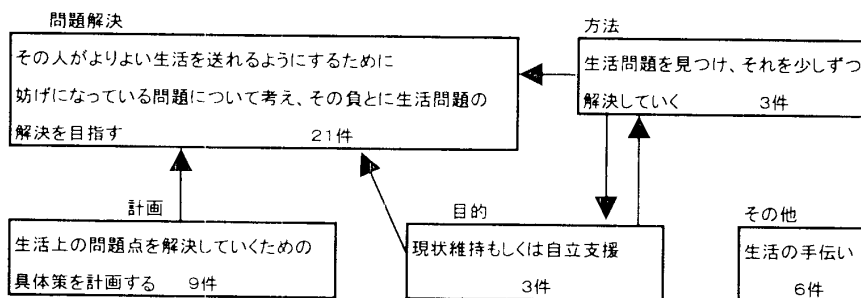


図10 何をするのか

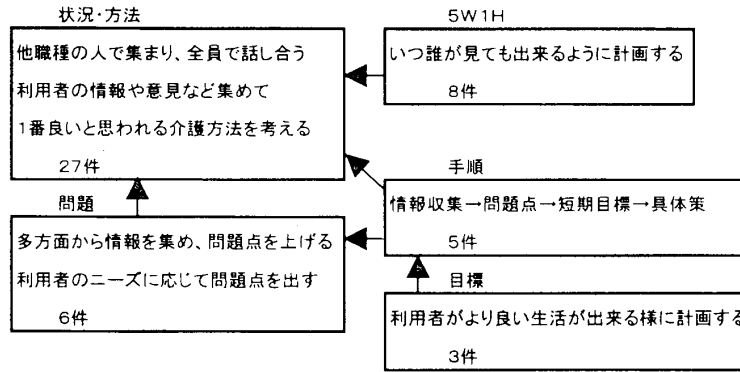


図11. どのように計画するのか

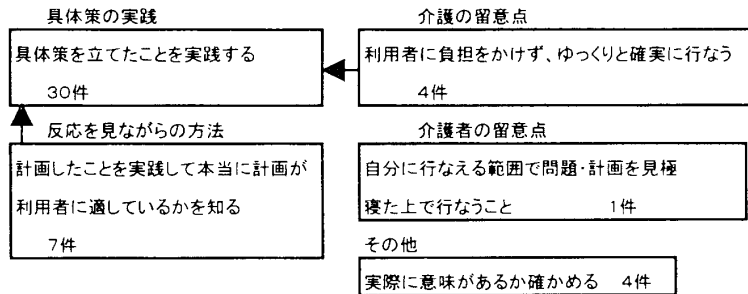


図12. 実践とは

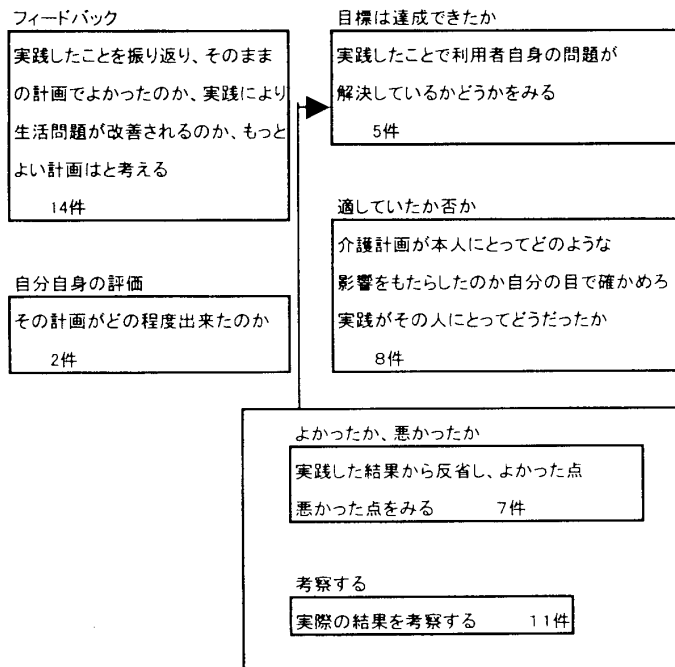


図13. 評価とは

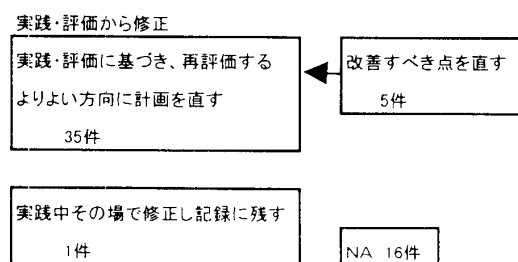


図14 修正とは

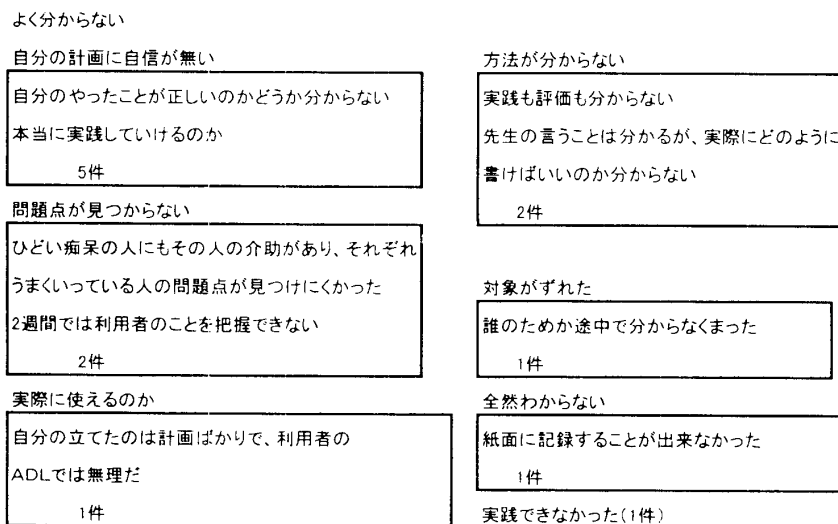


図15 介護過程の習得度と内容

画の今後の方向性を考えるが14件、実践の結果、本人にどのように影響したか、適していたかを考えるが8件、実践により、利用者がより良い方向に向かったかどうかかが5件、自分がどれだけできたかが2件である。

⑥修正とは (73%回答)

実践・評価に基づき計画を修正するが35件、改善すべき点を直す8件、実践中その場で修正、記録に残すが1件であり、回答率が低い。

7. 介護過程を展開してみても、授業科目の中で特に必要とした科目は何ですか？必要度の高い科目から番号順に書いて下さい。

1位 介護技術、その具体的内容

- ・介護過程の展開11、介護過程の演習を個人的にもっと多くの事例をこなす必要がある(2)、情報収集、計画の立て方
- ・排泄・入浴・移動・食事介助(4)、基本技術を身につける、オムツの清潔を保つ方法、マウスケア

- ・介護方法(6)、声かけの仕方、コミュニケーション

2位 障害形態介護技術、その具体的内容

- ・障害に対応してどのようにケアしたらよいか(11)、利用者にあった介護(2)、マヒのある人、
- ・拘縮している人の介護等
- ・障害内容(2)

3位 介護概論、その具体的内容

- ・介護理論の学習・心構え(2)、介護保険について、施設の種類とその目的、2年次も授業必用等。

4位 老人・障害者心理、その具体的内容

- ・利用者が何を必要としているか(4)、老人の心の持ち方(2)、老人の精神面・年をとるとどのような心理になるか(4)等

5位 レクリエーション、その具体的内容

- ・どのようにしたら楽しく過ごせるか(3)、具体的なレクリエーションの方法(3)、老人に対するレクリエーションとは、平均的に

参加できるもの、生きがい・生活の遊び化、突然のレクリエーションで困った、レクリエーションの種類について等

6位 医学一般、その具体的内容

- ・病気について (14)、老人の病気・人間の体について (2)、脊損・脳性マヒについて詳しく知りたい (3)、薬について (5)、障害について (2)

7位 リハビリテーション、その具体的内容

- ・ROMについて (5)、リハビリの簡単な方法等

8位 音楽、その具体的内容

- ・昔の歌

9位 社会福祉援助技術、その具体的内容

- ・法律も必用、援助技術について等

() は件数

8. 総体的に介護過程の展開はできましたか？

できた (1件)、まあまあできた (3件)、よく分からない (17件)、全然分からない (1件) の回答がみられた。

よく分からないものは、自分の介護計画に自信がない (5件)、ひどい痴呆の人にもその人の介助があり、それぞれうまくいっている人の問題点がみつけにくかった等の問題点が見つからない (2件)、介護過程の方法がわからない (2件)、誰のためか対象が分からなくなった (1件)、実際に使えるのか (1件)、実践できなかった (1件) である。

VI. 考察

学生は実習を体験することで介護は画一的ではなく、施設の処遇方針や個々の利用者の、状況に応じて応用した介護方法の大切さを学習できたものとする。また、現場の寮母から介護者としてあるべき利用者への接し方や積極的な態度のあり方を直接的に身体で教えられている。そして介護過程についてもケースを受け持ち、その価値観や生活歴等の個別性を配慮して改めて介護過程の学習になっている。加えて種々の施設や介護現場から介護福祉観を広げる機会になったことと確信で

きる。

介護の目的については利用者の生活問題解決を心身両面から介護する、利用者の生活向上を目的として介護方法を明確にする等、大体は理解できている。しかし単に情報収集すること、生活の手伝いをするのと部分的に捉えている学生もおり、それらの要素を関連させて総合的に利用者の生活向上への援助過程が考えられていない。このことは、実習目標を第一段階で情報収集、第二段階で計画立案、第三段階で評価・修正と到達目標を設定していることに原因があると思われる。介護過程は一連の過程であるので実習目標の設定について検討の余地もあろう。

生活問題の捉え方について学生は快適生活を困難にする障害だとか、ADLの自立不可能なことと捉えているが、機能別介護方式の実習をしていることで利用者個々の問題として捉えられていないように思われる。例えば排泄介助も業務分担として実習している状況から受け持ちケースの介護過程展開の問題として反映できていない。従って現場の機能的業務から個別ケア体制への転換が望まれる。

介護の対象についてはニーズを持った個人個人異なる人であると認識できているが、老人と限定している学生も存在することは実習場の関係が大きいであろう。ケアワークの対象となる人は児童から老人・身体障害者、精神障害者まで幅広く捉える必要がある。障害者施設実習をできるだけ体験できるような計画調整や学生も主体的に障害者施設等でのボランティア等が必要となるであろう。また介護者を含むとした学生は施設実習のため主体が曖昧であるが、介護過程は利用者の一定の目的に向かって介護する計画書でもあることから回答したものであろう。

どのように計画するかについては、計画立案時の状況・方法に関する意見が多いことと誰が見ても分かるように5W1Hを用いて立案するとも併せて、このことは今後のチームケアや連携の必要性や介護の継続性への考えに及んでいるものと考えられる。また、問題点を見つける手段や計画の手順や介護の目的等の回答があったことは計画において全て不可欠な要素であると言えるであろう。

実践については具体策を行うと回答した学生が多く、ほぼ理解していると思えるが相手の反応をみて実践という回答は少数の学生である。

評価・修正については実践結果から計画が良かったか悪かったかを検討する程度に留まり、利用者の状況はより良く改善されたかまでの評価ができていない学生は半数以下であった。評価とは計画を実践した結果、目標が達成されたかどうかを利用者に起きた変化で判断し、目標が達成されなければ何故なのか各要素にフィードバックして考え、その原因を追求し介護計画の拡充発展を図ることであるが、学生にはその考察する力が不足していると考えられる。これは実習期間の問題もあり、また介護過程の演習が計画立案で終わっていることも影響しているかも知れない。

介護過程の習得は理論と実践の統合が必要である。これらから学生が介護過程を効果的に習得するためには、現行の介護過程の講義・演習の時期や各1. 2. 3段階介護実習の目標の改善の必要が迫られた。そして実際にケースを受け持ち、介護過程を展開してみても6割の学生はできたと回答しており、4割の学生はわからないという回答であった。その要因は計画に自信がなく実践できなかったり、問題点がみつからなかったり、一日の実習計画に追われたり等の意見である。

実習場における学生の介護過程の指導は巡回指導教員が実施している状況であるが、教員が巡回時に全ての学生に介護過程を指導することが物理的に不可能であったり、利用者の状況が十分に把握できていない等の問題もある。従って実習場の指導者・教員共々に共有した指導時間が必要であることが分かる。また実習期間が2～3週間毎の短期間であることで介護過程が展開できないという回答もあり、実習期間の延長も必要な要素であることも考えられる。そして、現状での介護実習が主に機能別介護実習であるため、介護過程の展開を目的とする学習が効果的に行なえないのではないかと考えるのである。平成12年4月からの公的介護保険の実施に伴い、各実習施設も個別ケア体制へ変容され、ケース受け持ち制の介護実習体制が望まれる。

次に介護過程を展開するのに必要な科目につい

ては結果の通りであり、介護過程の展開技術は基より基本的な介護技術の習熟、障害形態別介護技術の強化、介護とは何か、老人・障害者の心理・ニーズ、病気の理解、レクリエーションの方法、リハビリテーションの原理・原則、昔の歌を知ること、社会福祉の援助技術等であり、介護過程を展開するための必要な必須科目の検討とその教授内容についても検討の余地があると考えられた。

VII. まとめ

その人らしく生活できるように個別介護を提供していくために介護過程の展開は欠かせない。介護福祉学を学習する学生が介護過程を習得するためには種々の指導が不可欠である。それは教授する側として、講義と実習の関連性を密接に考慮すること、教員の巡回指導のあり方、実習計画の立て方、科目の教授方法等、多くの課題が明らかになった。実習を受ける側として、機能別介護体制から個別介護体制に移行し、個別介護計画の基に介護を提供していくことが先決課題ではなかろうかと考えられた。

参考文献

- 1) 一番ヶ瀬康子：介護福祉学とは何か、ミネルヴァ書房、p47, p109, p117, 1995
- 2) 福富昌城他：個別介護計画をすすめる実習指導方法に関する考察、介護福祉学、VOL 3 No. 1, 1996、日本介護福祉学会
- 3) 西村洋子：専門職養成のための介護福祉実習の課題、介護福祉教育学会、1997
- 4) 石田一紀：介護過程論のための覚書：介護福祉研究、VOL 4, No. 2 1996. 岡山県介護福祉研究会、中国四国介護福祉学会